



「島からの眺め」

ひふ科 藤井医院  
藤井 弘人

姓からお分りのように、小生はウチナンチュではありません、内地人です。世に言う「沖縄ブーム」ののって、移住してきた一人です。おかげさまで今年で5年を過ぎ、何とかこちらの生活にも慣れてきました。5年の節目の決心で八重山に骨を埋めることにし、出身地の家も処分しました。

山に囲まれた出生の町と30kmはなれた大学のある隣町を行ったり来たり、仕事場も結局、産まれた町のビルの谷間で開業と故郷を離れたことがなかった反動でしょうか？人生も先が見えてきた50歳を過ぎたあたりから拡がりにあこがれるようになり、海の果てない拡がりを求めてやってきました。自分で自分自身をリストラするような状況ですから、新天地での生活も必要最小限を心がけ、省力化、スリム化を図りました。

で、当地に新しく診療所を開くのを機会に、思い切って、電子カルテを取り入れることにしました。いま小生が使っているのは、「Dynamics」という、広島工学博士をもつ内科の開業医である吉原氏によって開発された電子カルテです。なにしろ、コンピューターに明るい方が開業医である自分自身の楽が出来るように開発したわけですから、かゆい所に手が届くような感心するような工夫に満ちていて、マンネリ化して、単調、機械的になりがちな日頃の診療が、オモチャを使って遊んでいるような楽しい仕事に変身するような面白さがあります。

例えば、薬疹歴のある患者さんの禁忌薬を一度入力しておけば、処方薬の一覧に禁忌薬だけ色付の警告がでるとか。カルテ開示を前提に、求めに応じて患者さんの携帯電話に電子カルテの内容をお渡しすることが出来るとか。極めつけは、災害対策で、自身の携帯電話にそっくり、電子カルテのデータを入れ、災害時の停電

などは勿論、出先などでの問い合わせ等で患者さんの診療内容が知りたい時に携帯電話を覗くだけで的確に対応できるなど、勿論、セキュリティも万全で、携帯電話の患者データはパスワードを3回間違えると自動的に全部が消滅するなど、ちょっと、スパイ映画的な遊び心もあります。

電子カルテ「Dynamics」の基本となるデータベースの仕組みも、あのメジャーのマイクロソフトのアクセスの上に構築されているので、汎用性もあり、アクセスの知識のある方なら、自分なりに応用も出来るという具合でリソースもオープンです。当然、大手メーカーの様な意味も解らない高額ではありません。まさに開業医向けのソフトといえるでしょう。

なにしろ、離島僻地で近くにコンピューターの専門店がある訳でなし、トラブルに遭遇した時、PCが壊れた時、自分で対処するしかないので、WindowsベースのLANでOfficeに組み込まれているデータベース＝アクセスで運用できるのはとても助かります。

サポートも、開発スタッフ、開発者の吉原先生、ユーザー同士が混ぜん一体となったメーリングリストで お互いに助け合いながら、お互いのトラブル体験を共有しあいながらのサポートで、毎日、メーリングリストを覗くだけで自然に知識や未経験のトラブル対処法まで身につくという体制で、いつも隣に頼りになる人が居るような、、、そんな気にさせてくれます。

当初パソコン(PC)はまったくの素人でした。PCの雑誌を片手に適当に未消化のまま「ネットワーク」なるものを院内に組み、ひとつ一つ、解らないなりに試行錯誤しながら組上げました。

成せばなるもので「skillよりもwill」という「Dynamics」のキャッチフレーズの如く、誰でも最初は素人。経験を重ねることで、小さなPCのトラブルにも少しは動じなくなりました。

同じ診療でも今までは違った、なにかゲームでもしているような面白感覚を持ちながら仕事出来る。それが電子カルテ「Dynamics」の良さかもしれません。

なんでも厚生省の号令であと2~3年後にはレセプトがオンライン化されるとか・・・。



事の良し悪しはともかく、どうもPCとの接触は避けて通れない道ようです。

いま、当方の電子カルテ「Dynamics」も着々とオンライン化に向けて準備を重ねています。レセプトの受付締め切り間際に台風とか悪天で飛行機の運行が止まってしまったり、離島僻地にとっては、毎月レセプトの送付は大きな山でした。レセプトのオンライン化は、考え様では離島僻地こそ確実に安全な解決への道なのかもしれません。

パソコン（PC）のトラブルも島独特でした。特にビックリしたのは 湿気と塩害でした。頭の中では理解していたものの、3年も経たないうちに パソコンのハードディスクが損傷したり、ICチップのムカデの足の様な基板との半田着けの部分に緑青が吹いて錆びていたり、ICチップの接合部に埃がたまり、その埃が塩気を含んだ湿気でショートを起こしたり、まるで想像もしなかった障害に何回か見まわりました。それもなぜか、連休明けの忙しい日に良く起こりました。おそらく、休みで電源を落としている間に 湿気がじわじわと浸透してショートを起こすのでしょうか。聞く所に拠ると、海岸線から8km以上離れないと塩害から免れないとか、、、と言う事は島のどこに行っても塩害からは逃れられない、、、。

で、以来PCの部屋の窓は開かずの窓になって、エアコンの電気代がガンと跳ね上がりました。でも、まあ、PCの修理に掛かる損害よりはましと。

時代の流れとはいえ、いろいろな場面でPCが必需品になってきたようですね。

国のレセプト・オンライン化の方針もこんな状況で離島ではさらに負担増があるなんて考えてもいないでしょうね。しかも離島僻地は、都市部と異なり患者もまばらな零細経営。通販で全国送料無料と謳っても、いざ注文すると「離島は別途送料が掛かります」とくる。おいおい、離島は「日本国」のうちに入らないのかよ!!10月から郵政も民営化が実施です。全国一律の低廉な価格体系も今後離島はどうなることやら??

お上が、離島僻地の偏重な負担を鑑みずに、反面「法の基の平等」などとのたまわっても、

なにかピンと来ない今日この頃です。島に住んで内地を眺めると、そんな風景が見えて来るようになってきました。



★リレー状況

—平成16年以前掲載省略—

- 29. 仲間 司先生（県立那覇病院）Vol. 41 No.5
- 30. 新里 讓先生（沖縄赤十字病院）Vol. 41 No.11
- 31. 友利正行先生（ともしり内科循環器科）  
Vol. 42 No.2
- 32. 具志一男先生（ぐしこどもクリニック）  
Vol. 42 No.4
- 33. 神谷鏡子先生（かみや母と子のクリニック）  
Vol. 42 No.6
- 34. 呉屋良信先生（わんぱくクリニック）  
Vol. 42 No.9
- 35. 江洲浩明先生（はえばる耳鼻咽喉科）  
Vol. 42 No.11
- 36. 真栄城徳秀先生（真栄城耳鼻咽喉科）  
Vol. 43 No.2
- 37. 野原昌亮先生（野原整形外科）  
Vol. 43 No.4
- 38. 平良章先生（にしはら耳鼻咽喉科）  
Vol. 43 No.5
- 39. 仲程一博先生（南西耳鼻咽喉科）  
Vol. 43 No.7
- 40. 松尾周一先生（まつをレディースクリニック）  
Vol. 43 No.10